

すてきな笑顔 明るいいいさつ 大銀杏



日置市立上市来小学校 No.3 令和3年6月7日

読書を楽しむ! ～ 6月は読書月間 ～

校長 東別府 義治

私は、3人の我が子によく読み聞かせをしていました。特によく読んだのは、『はじめてのおつかい』です。「みいちゃんが、うたをうたいながらいくと・・・」と読むと、3人で「ちりん ちりん」とベルの音を真似ます。『バムとケロ』シリーズでは、「こんなところにもケロちゃんがいるよ」と絵も楽しみました。少し年齢が上がると『こまったさん』シリーズが人気でした。どこで「こまったわあ」が出てくるかを楽しみにしているようでした。高学年になると読み書きかせではなく、自然と自分の興味あるジャンルの本を読むようになりました。



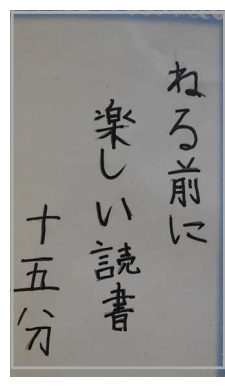
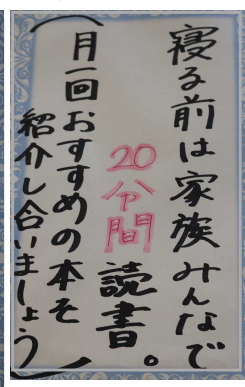
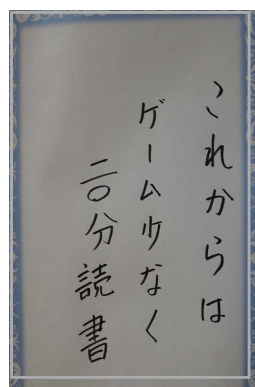
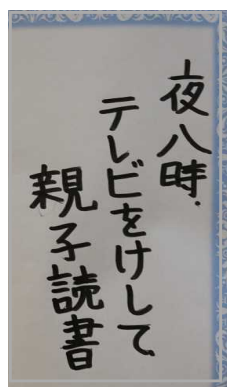
こけけ文庫

本校も読書好きの子どもが多く、ほぼ毎日、図書室で読書をしたり本を借りたりしています。月一回のこけけ文庫も人気があり、昼休みに学年ごとに借りるようにしています。

読書月間の今月は、読書標語やオリジナルのしおりを作ったり、ミニブックトークを実施したりするなど、本をより身近に感じられるように工夫をしています。

また、PTAで取り組んでいる我が家の家訓のテーマも本年度は、「家族で読書」です。家庭で話し合って実践されている家訓を紹介します。

【保健室前に掲示しています】



書くことも楽しむ! 南日本新聞『若い目賞』受賞

毎日の日記もおもしろいものも多く、よく南日本新聞の「ひろば」欄に投稿します。本年度に入ってから、重水亜子さん(6年生)の『キャプテン』、重水瞬里さん(2年生)の『ほおじろの赤ちゃん』が掲載されました。地域の方々からも「あの作文に元気をもらったよ。」「上市来小の子どもたちは文章が上手だね。」と声をかけていただきます。

継続した投稿により、4月の『若い目賞』【南日本新聞】を受賞しました。これからも子どもらしい作品を投稿していきたいと思います。

本校の全校体制による教育活動の中に、「特別支援教育」の充実があげられます。今回は、特別支援教育について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

特別支援教育って何？



人間は一人一人得意なこと苦手なことが違います。そのような「個」に応じた支援を行うのが特別支援教育です。「特別」という言葉がつくと、敷居が高く感じることもあるかもしれませんが、しかし、特別支援教育はすべての学級で行われています。担任が、話す速さを子どもによって変えたり、わかりやすいように写真やイラストを活用したりすることも特別支援教育でいうところの支援です。視力の関係で眼鏡を使う人も多いですよね。これも支援の一つです。学習や友だちの関わり等で困難さを抱えている子どもたちは、適切な支援・環境を整えることで、笑顔がどんどん増えていきます。

☆こんなことで困っていることはありませんか？

生活の場面で	学習の場面で
・姿勢が崩れやすい ・はさみや定規を使うのが苦手 ・聞き漏らしや聞き間違いがある ・じっとしてられない ・よく怒っている ・ルールが守れずトラブルが多い ・一人遊びが多い ・忘れ物が多い ・こだわりが強い など 	・行をとばす、同じ所を繰り返し読む。 ・字がマス目からはみ出る。 ・「つ」「や」「ゆ」「よ」「はをへ」の誤字。 ・漢字を繰り返し書くが、覚えるのが難しい。 ・一桁の暗算に時間がかかる。 ・計算はできるが図形は苦手。 ・文章問題が苦手。 など 

☆このような困難さの支援を支える場として、上市来小では次のような体制を整えています。

子どもや保護者相談の場として

○特別支援教育コーディネーター（今村）や担任との教育相談（適時）
○スクールカウンセラーとの相談（年3回 6/16,11/10,2/2）

苦手さや困難さに対応する学習の場として

○通常学級担任等による個へ配慮した支援やユニバーサルデザインの授業
○特別支援学級（ひまわり）学級で自立活動や教科などの学習
○通級指導教室に通級しての学習（伊集院小（ことば）・ふれあい教室）

適切な支援が健やかな成長を助けます。

その他日置市では・・・

○日置市子ども支援センターでの相談（家庭相談員・カウンセラー・保健師など）
○ふれあい教室（日置市適応指導教室）での学習や体験活動